

友 FREUND ディスクロージャー優良企業賞に寄せて

フロイント産業株式会社 代表取締役社長 伏 島 巖

この度は、新興市場の銘柄におきまして、2017年度ディスクロージャー優良企業に選定頂き大変光栄に思っております。これは、偏に関係アナリスト、市場関係者の皆様の当社へのご理解とご支援によるものと深く感謝を申し上げます。

当社は、創業以来、半世紀以上に亘り主に製薬会社向けの医薬品製造装置、医薬品添加剤の研究・開発、販売をしてまいりました。

今年度から第7次中期計画「ONE FREUND」の策定に際し、「フロイントグループは、世界中の人々の医療と健康な未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します」を経営ビジョンとして、中期計画における施策を通しながら、当社企業価値の向上に取り組んでいます。

当社IR活動の基本的な考え方として、すべての機関投資家、アナリストに対して、経営トップが指揮を執り、適時・真実・明瞭・継続した活動をしています。機関投資家との対話を年間で150回以上、個人投資家説明会は、主要都市をはじめ、全国20の地方都市で開催しました。特に地方での個人投資家説明会は、単に個人投資家への当社PRだけではなく、地方に在住する個人株主との対話の場としても位置付けています。

当社はIR専任部署に3名を配置しCEO、IR掌管役員、IR専任部署による機関投資家、アナリストとの対話を通して、中期計画をはじめ、経営に関するご意見は、すべての経営陣と共有しながら経営に反映させるサステナブルな信頼関係の構築を常に目指しています。

対話の一例として、「新規分野への進出などに

関して、計画の推移を事業環境も背景にしたKPIを示して欲しい」など、自社内とは異なる角度の視点は、事業の運営上、直ちに実行することが出来なくても大変参考となり、建設的な対話の有意義さを感じています。

投資家ヘファ・ディスクローズ、建設的な対話を通して、株式市場から等身大で評価されるためにもIR活動の重要性を認識しています。

また、当社は、国内外でもニッチ分野で事業を展開しているため、投資家に事業のユニークさは理解頂けても、類似会社との比較や相対的な優位性などの説明の難しさがあります。そのような観点からも非財務情報の投資家への提供は重要なことと位置づけ、2013年から統合報告書を発行しています。

現行の統合報告書に関しては、コンサイズにする観点から、全体の内容が簡易になっていると捉えています。

その課題に対して、2018年度から統合報告書を①非財務情報を中心とした「フロイントレポート」、②財務情報を過去10年に亘る「Fact Sheet」、③財務情報を詳細に説明する「決算説明資料」の3つに分冊化した「統合的思考に基づく報告書体系」に変更します。この3つの資料を軸とした資料体系で、機関投資家、アナリストの皆様が必要な財務・非財務情報について、より詳細かつ利便性の高い情報開示をしたいと考えています。

今後につきましても、IR活動における更なる努力、工夫を通して、当社ならびに当社事業が正確に理解される努力をしてまいります。